

ぶどう「安芸クイーン」のメピコート・クロリドによる花振り防止法

【要約】ぶどう「安芸クイーン」の有核果生産において、植物生長調節剤であるメピコート・クロリド500、800倍液の新梢展開葉 7～8枚時の処理により、有核果粒着生数が増加し花振りが防止できる。

三重県農業技術センター 伊賀農業センター 果樹担当						連絡先	0595-37-0211
部会名	果樹	専門	生理	対象	ぶどう	分類	研究

【背景・ねらい】

ぶどう「安芸クイーン」は、鮮やかな赤色で「巨峰」より大粒で糖度が高く、品質的には極めて優れているが、花振りがやや多いことが欠点である。そこで安定した結実を得ることを目的として、ジベレリン生合成阻害剤のメピコート・クロリド処理による花振り防止効果を検討する。

【成果の内容・特徴】

- ①新梢展開葉 7～8枚時のメピコート・クロリド 500、800倍液処理により、有核果粒の着生数が増加する（表1）。
- ②処理により新梢伸長が抑制される（表2）。
- ③処理の果実品質へ及ぼす影響は小さい（表3）。

【成果の活用面・留意点】

- ①「安芸クイーン」の有核果生産において、結実安定が期待できる。しかし、農業登録はない。
- ②処理により着粒数が増加するので、果実品質を低下させないためには、的確な結果量調整が必要である。

【具体的データ】

表1 ぶどう「安芸クイーン」の結実性に及ぼすメピコート・クロリド処理の影響（平成4年）

	1房当たり着粒数		1房当たり有核果粒率(%)
	有核果	無核果	
500倍液処理	28.5	11.4	71.4
800倍液処理	27.7	3.3	89.4
無処理	17.6	12.0	59.5

表2 ぶどう「安芸クイーン」の新梢伸長に及ぼすメピコート・クロリド処理の影響（平成4年）

	新梢長 (cm)		伸び率 (%) II/I × 100
	処理時 (I)	満開時 (II)	
500倍液処理	34.5	63.5	184.0
800倍液処理	30.9	57.8	187.0
無処理	35.9	88.7	247.0

表3 ぶどう「安芸クイーン」の果実品質に及ぼすメピコート・クロリド処理の影響（平成4年）

	果房重 (g)	果粒数 (粒)	果粒重 (g)	果色 ^z	糖度 (%)	酸 (%)
500倍液処理	452.3	28.0	16.1	3.5	15.6	0.43
800倍液処理	457.3	28.0	16.3	3.5	16.0	0.48
無処理	410.1	23.4	17.5	4.4	17.4	0.53

^z 5段階評価：1（未着色）→5（完全着色）

【その他】

研究課題名：ブドウ「安芸クイーン」の高品質安定栽培技術の確立
 予算区分：県単
 研究期間：平成5年度（平成3～4年）
 研究担当者：輪田龍治、伊藤 寿
 発表論文等：ブドウ「安芸クイーン」と「巨峰」における結実性の比較、園芸学会雑誌、第63巻別冊1、1994（予定）。